

生きのびるために

まずは自分が生きるために

暮らしの中に必要な備えは？

阪神・淡路大震災でもっとも被害が大きかったのは家屋の倒壊による圧死。地元の自治体や警察、消防署も被災しておりすぐに来てはくれません。家族が生き残るためにもまず、「私」が生き残るための覚悟と備えをしておくことが大切です。

食料
飲料水を！

◆備蓄品

最低限、家族の1週間分用意しよう！

緊急的に避難する際に持ち出す「非常持出品」はすぐに持ち出せるように袋に入れて、玄関など手近な場所へ保管します。乳幼児、妊婦、要介護者、家族構成に合わせて、自分にとって優先順位の高いものを整理し準備します。

救援物資が届くまでの間、自力で生きのびるための「備蓄品」は、車のトランクの中や物置の中にも置いておくと安心です。



● 自宅を安全な場所に

家の耐震診断、家具の転倒防止、備えあれば憂いなし。最寄りの避難所、地震に関するさまざまな情報を宝塚市ホームページ“総合防災課”で検索できます。

宝塚市役所（大代表）0797-71-1141

宝塚市総合防災課

←検索

女性であれば生理用品や化粧品、子どもであればおもちゃや絵本、その他にメガネ・入れ歯なども

「目指せ！わたしたち発 地域防災プロジェクト」

佐々木 妙月さん（情報の輪サービス株式会社代表取締役）

地域には多様な人たちが生きています。日頃の地域社会が、誰にとっても住みよく、対等な支え合いのもとでの共生社会であることが、災害に強い地域社会を作る鍵であることは、阪神・淡路大震災、東日本大震災からも明らかになりました。

非常時における人々の抑圧された感情は弱いところに矛先を向けます。だからこそ「弱いところ」の声を傾け、

拾い上げ反映させる体制として「わたしたち発 地域プロジェクト」が市民による自主グループと人権男女共同参画課との協働によって具現化していくことは地域に多大な影響力を与えます。

そのひとつとして、地域の多様な人たちがもつ多様なニーズ・生き方に配慮し、日頃から合意・共有・対応できる地域力を育むために、「女性による女性の視点」を重視した「防災力アップガイド」

宝塚版がこの度作成されました。

防災、減災、復興に「女性による女性の視点」を大切にすること。それは日常の関係性、地域のありよう、日々の地域住民とのつながりを問うことでもあり、「いま、ここ」にいるわたしたちの生き方が問われることです。この宝塚版「防災アップガイド」が多くのの人々に活用されることで、男女共同参画社会を実現していく一歩となることを確信し、喜びのメッセージとさせていただきます。